

田選相歸郷

●全社記者大會 ●十三日朝報ホテルに於て



大宮の喜び

●國境鮮民の
●運春事件の影響
●大宮の喜び
●大宮の喜び
●大宮の喜び

大豹射殺

●大豹射殺
●大豹射殺
●大豹射殺

有益にして趣味ある講演

●有益にして趣味ある講演
●有益にして趣味ある講演
●有益にして趣味ある講演

魚價が騰つた

●魚價が騰つた
●魚價が騰つた
●魚價が騰つた

沿海地方に

●沿海地方に
●沿海地方に
●沿海地方に

大相撲を見る

●大相撲を見る
●大相撲を見る
●大相撲を見る

土工の大格闘

●土工の大格闘
●土工の大格闘
●土工の大格闘

大金を詐取

●大金を詐取
●大金を詐取
●大金を詐取

慶殺事件公判

●慶殺事件公判
●慶殺事件公判
●慶殺事件公判

職員運動會

●職員運動會
●職員運動會
●職員運動會

大工百人募集

●大工百人募集
●大工百人募集
●大工百人募集

京日案内

●京日案内
●京日案内
●京日案内

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

御料理

●御料理
●御料理
●御料理

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

陸軍拂下

●陸軍拂下
●陸軍拂下
●陸軍拂下

佐藤古着店

●佐藤古着店
●佐藤古着店
●佐藤古着店

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

御料理

●御料理
●御料理
●御料理

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

陸軍拂下

●陸軍拂下
●陸軍拂下
●陸軍拂下

佐藤古着店

●佐藤古着店
●佐藤古着店
●佐藤古着店

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

御料理

●御料理
●御料理
●御料理

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

陸軍拂下

●陸軍拂下
●陸軍拂下
●陸軍拂下

佐藤古着店

●佐藤古着店
●佐藤古着店
●佐藤古着店

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

御料理

●御料理
●御料理
●御料理

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

御料理

●御料理
●御料理
●御料理

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

陸軍拂下

●陸軍拂下
●陸軍拂下
●陸軍拂下

佐藤古着店

●佐藤古着店
●佐藤古着店
●佐藤古着店

健胃消化錠

●健胃消化錠
●健胃消化錠
●健胃消化錠

竹の家

●竹の家
●竹の家
●竹の家

御披露

●御披露
●御披露
●御披露

御料理

●御料理
●御料理
●御料理

世に、われ一人生き残るはよし

船を引いたやうになつた血刀を杖につけて、只ある松が横に息を入れた

「清之丞はもう冥途へ旅立ちましたそれにわしは死なない、ああ、わしは不幸に生きて居る、いつそ腹を切らうか、世を連れて清之丞の佛門を叩くか」

もし此が以前の三左衛門であつたら、清之丞が前へ死んで、己だけ生き盛つたのを、二ある自分が幸願として歎かんであらう、自分が手に掛けても無い者にしやうとした戀の敵は自滅して、頼みある世に、己れで戀人とが生きるまことに願ふてもない歎びであるけれど今は夫が悲しい、身にも替へられ戀慕つて居た戀人は、馬の糞にも劣つた者であつた、武士の風上にも置かれぬ闇謀の臭を持つて居た、そんな者の生きたる

「清之丞は死んだが、侍従様は入道で居せられる、こゝで大して、清之丞の菩提になるか、之丞は討死しても、忠義の魂はつて居る、その魂が歡ぶ、つて居る、その魂に捧げて、それを極く受けて呉れようか、そんな事してはならぬ、清之丞の忠義の魂は、わしが悲愴に死ぬるのを。」

以御印・治明二三元實業社社長
花柳病 須古 醫師
皮膚病 電話 二〇二二

んでくれる、清之丞と二人前の義をするのが、何よりも供養にる、今日の鬱刺で職間が終つたではない、大敵がまだ殘つて居これから佐和山・伏見・大阪・切れぬ」

夢から覺めたやうに武者振ひつして立ち上ると、鈍い夕陽が蒼白の面を照らす

終つて、これから諸大將に謝恩を
 許す處である
 正則は、自ら關將の第一をもつて
 て許して居る。假へ他に拔群の手
 柄をした者があるにしても、乃ち
 が無かつたら、今日の大會戦に女
 勝利を得なふことは爲きなかつ
 たであらう。すれは第一の功名は
 我身である。内府公おれを見たま
 へ、誰よりも前へ、お歡びの御

牛乳
 院原 政原 鮮魚
 カネ 用 御
 東京池田町四軒
 岡野牧場
 電話 一〇六九號

許して居る。
それが家康には熟く見えた。お
ざと正則を見ぬやうにして
「甲斐」の「」を黒田長政後
呼んだ。長政は進み出る。

白濁ハクダク 月毎の音や秋の晴
秋晴アキハレ 港にをらす錦かな
秋晴アキハレ ヲヨの小家秋晴
眼メノと庭に氣採キサヒ 落古晴
眼界ガイケンを越え空樹ソウキョの晴
兵營ヘイエイに物干すは秋の晴
秋晴アキハレの烟に芋粥モロコシの作都ツクリ
秋晴アキハレより山御嶺ヤマミナトにまで
煉瓦レンガ工場の黄な煙ケムリ秋晴アキハレ
泰利タイリ工場カウチンかな小秋晴オホキハレ
秋晴アキハレの空の深フカイこゝる塔タ

洋二二三

枝豆

一人が枝豆を抜き二人に枝豆
紹介狀を貰ふ大坂にたけ豆
見もの大阪二新町枝豆うまく
酒のみへの枝豆倉持つまむ
通儒館 第三冊になつた枝豆
大掃除通知あり食卓枝豆
枝豆返事もせず新聞
枝豆食ひの反ばりかな枝豆の盆
枯くもへ枝豆の盆に枝豆あり
枝豆登見し日妻に枝豆あり


浮碧樓
田中
句平
華虹
黃丘
鳥堂

△吉州金融組合
△資本金二十萬圓

八月五日雨 が午前三時
 降り出して、朝の市価頗低、秋の一番に夢
 れて居る。昨午、食を五時半に終つて、
 午六時半、川邊に下り、海、西門の邊に
 其處の市を見る。市、賑々しく、人衆多
 一、二時、雨、降る。雨、大に、大に、
 降る。雨、降る。雨、降る。雨、降る。

三ほまれ味
 日本酒造株式会社
 電話 二四五番

○地方代金引換
○市内電話にて御注文大
○御配達



楠シシ商會
民國六年三月廿二號郵發

[illegible][illegible]

御婦人二代のお化粧……の内

是代 の御婦人の お化粧には

（第一に）
 東京大阪の貴婦人令嬢間に流行式のお化粧法を以て大流行の左の方法を勧め致します。
 脂や石鹸よりも牛乳よりも遙かに有効な日本産物「クララ」洗粉で顔を洗ふ。
 （第二に）
 一番よくきく「クレ」日焼止め兼用のお化粧「クララ」爽身クリムを顔から顔へかけて塗り、指先で軽く擦込んでから、素肌オイルで軽く拭取る。

（第三に）
 一番高尚で美しい艶が出る

クララ 白粉を

（第四に）
 雲に取り、指先で能く練つてつけ、（唇は顔よりも少く塗る事）、
 唇丹唇毛で白粉をせし、水脂毛で白粉を塗りし、素肌オイルで抑へて白粉を添付させる。（薄化粧には「クララ」水白粉を御使用の事。）
 （第五に）
 お顔にお「クレ」緑色の健康色を添へる「クレ」頬紅を、目の下から頬へかけて薄く塗りつける。
 お化粧に一段の光彩を添へる「クララ」粉白粉をキム草につけて顔に薄く打ち、襟はボツトに粉白粉を含ませて刷いた上をキム草で軽く打ちよす。高価で美しい淑女式のお化粧が出来るのでございます。